



「サイディア・フラハ」とは、スワヒリ語で
“幸福の手助け”
 という意味です。

サイディア・フラハは

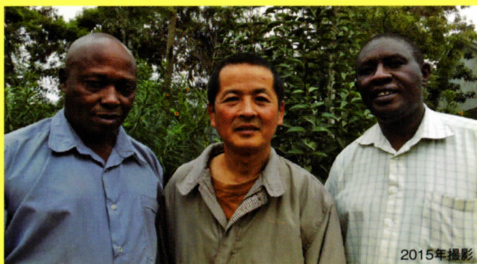
日本人とケニア人が対等で一緒に作ってゆく、
 子どもと女性のためのプロジェクトです。

ぜひ皆さんも参加し、

ケニア人と協力してよりよい活動をしていきましょう。

荒川 勝巳

<サイディア・フラハ共同運営者の三人>



ピーター・カルリ 荒川 勝巳 デニス・コーデ
 2015年撮影
 2020.12.10死去 享年68



「サイディア・フラハを支える会」に
 参加しませんか？

「サイディア・フラハ」の活動を運営・資金の両面から支援するため、1994年「サイディア・フラハを支える会」が設立されました。現在、全国各地に約170名の会員がいます。会員の方々からいただいた会費および寄付を「サイディア・フラハ」への援助資金とし、また「サイディア・フラハ縫製工房」で製作した布製品や女性グループが作ったビーズ・アクセサリーを、NGOやアフリカ関連のイベントに参加して販売することで、援助資金に充当しています。近年は「サイディア・フラハ」へのワークショップやスタディーツアーの問い合わせにも対応しています。ケニアの子どもと女性の自立支援に、ぜひあなたの力を！

個人会員 (年会費)	3,000円 / 1口
子ども教育基金	10,000円 (年会費を含む) プロジェクトで支援する小学生や裁縫教室生徒の教育にかかる費用の補助。
孤児里親制度	36,000円 (年会費含む、分割可) 孤児一人を養育するのに年間10万円ほどの費用がかかります。里親3名で、一人の子どもを支えていくようにする。里親には孤児の成長記録を、随時送る。
団体年会費	5,000円 (年会費を含む)
自由寄付	年会費以外に金額自由な「自由寄付」を随時受け付けています。使用目的を指定することも出来ます。

*会員になると…

年3~4回、「サイディア・フラハ」から手書きの「ビヨンボ通信」(A4サイズ4P)が届き、現地の子どものたちの日常生活が生き生きと伝わります。同時に、国内での活動を伝える「Pamoja!」(A4サイズ4P)が年2~3回発行され、「ビヨンボ通信」で伝えきれないニュース、国内のイベント参加等のようすをお伝えしています。

郵便振替口座：00170-6-111757
 加入者：サイディア・フラハを支える会
 ゆうちょ銀行 当座：〇一九店 111757



<ケニア共和国「サイディア・フラハ」連絡先>
 SAIDIA FURAHA ORGANIZATION(S.F.O)
 P.O.Box10 Kitengela 00242 KENYA

<日本連絡先>
 「サイディア・フラハを支える会」代表・大門千春
 〒176-0011
 東京都練馬区豊玉上2-1-11-901
 TEL：03-3391-6600(横山)
 E-Mail：kwa.saidia@gmail.com

<フェイスブック / Facebook>

▶ <https://www.facebook.com/saidiafuraha>

<サイディア・フラハ ホームページ>

▶ <http://saidiafuraha.sakura.ne.jp/top.html>

ビヨンボ通信のバックナンバーがご覧いただけます！

運営委員として参加しませんか？

イベント(年間4~5回)参加、会報発行、物販民芸品の管理、等あなたの日々の時間の「少し」をわけてください。興味のある方はkwa.saidia@gmail.comへご連絡ください。



ケニアの子ども・女性と共に生きるNGO

「サイディア・フラハ」
 を支える会



Since 1993

最新号
 2022

SAIDIA FURAHA



サイディア・フラハの活動

サイディア・フラハは1994年にケニア政府によりNGOに認可され、これまでたくさんのケニアの子どもや女性たちを支援してきました。その活動内容をご紹介します。

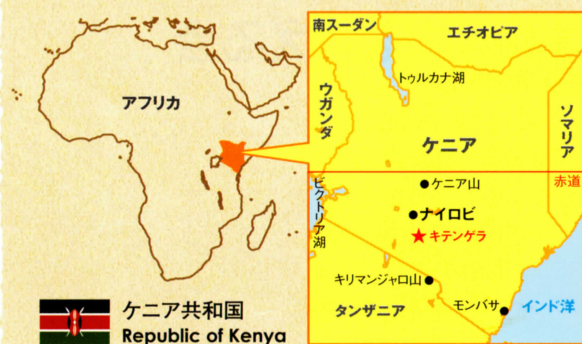
<サイディア・フラハの目的>

- 1 ケニアの子どもたちの養育・教育
- 2 児童養護施設・裁縫教室・縫製工房・幼稚園・女性支援

<サイディア・フラハの運営方針>

- 1 ケニア人と日本人の共同運営
- 2 自主財源作り
- 3 日本とケニアとの相互交流
- 4 支援対象は民族・肌の色・宗教を問わない

サイディア・フラハのある場所



<ケニア共和国カジアド県キテンゲラ市>

キテンゲラ市は、ケニアの首都ナイロビから約30km南東に位置し、海拔1500mのサバンナの中にある。遊牧民族マサイの人々が多く住む地域にあり、工業地帯として開発されているため、この地域への人口流入が激しい。サイディア・フラハ設立の頃は「町」でしたが、現在では人口推定35万人もいる市になりました。今後まだまだ大きくなるでしょう。

児童養護施設

1996年2月開設。現在は16名まで入居可能な宿舎があります。当初は男女を問わず受け入れましたが、現在は3才から18才までの女子を対象にしています。その理由は、ケニアではいまだ男尊女卑の傾向が強いいため、保護養育の必要性が高い女子を特に優先することにしたためです。現在12名の子どもが在籍しています。(2022年現在)

- ◆年少で入園する子どもたちは幼稚園・小学校を経たあと、能力に応じて高校・専門学校(サイディア裁縫教室を含む)へ進学します。そこで、自立するための技術を修得して社会へ出ます。
- ◆年長で入園する子どもたちは裁縫教室へ入って技術を学び、社会へ出ます。



児童養護施設の宿舎

幼稚園

近隣の低所得者の子どもたちを対象として、小学校へ入学できるだけの教育を受ける機会を実現します。



教室内の園児たち

縫製工房

裁縫教室を優秀な成績で卒業した子どもの就職先になります。自立への第一歩です。

- ◆より高度な裁縫技術を身につけてもらう。
- ◆バッグなどの製品を制作して日本などで販売し、その利益をプロジェクトの財源の一部にあてる。



工房内での製品作り

小学校

ケニアの公立小学校は、1クラスの生徒数が多いため、教育レベルが低い。そこで地域コミュニティの教育改善の要求に応じて、2014年私立小学校を開設しました。小学校の教育支援の通学児童10名。



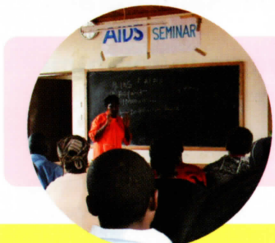
近年、公立小学校の教育レベル低下が著しいため、授業料が廉価で教育レベルの高い学校が必要とされています

裁縫教室

ケニアでは若者の適当な就職先がほとんどなく、しかも女子は男子に比べ極めて少ないのが現状。そこで主に女子を対象にして運営。また、この教室には孤児などの支援の子ども以外に一般家庭の有料の子どももいます。



教室内の生徒たち



女性支援 * * * * *

保健セミナーへの参加や、アクセサリ作りなどを通して、日々の生活維持に役立ててもらうのが目的です。

◀ 専門家の講義を受ける

サイディア・フラハの沿革

- 1985年 エチオピア飢饉の報道に心を動かされた荒川勝己は、初めてアフリカへ渡る。東アフリカを見て回り、ケニアの首都ナイロビ近郊の児童養護施設で、1987～1990年まで働き、海外ボランティアについて学ぶ。
- 1992年4月 ケニアでケニア人、デニス・コーデ、ピーター・カルリと共に三人でスラムの子どもを支援するNGOを作り始める。
- 1993年2月 キテンゲラ町に土地を購入、3月施設建設。7月、貧しい子どものための幼稚園を開く。
- 1994年3月 ケニア政府よりNGOとして認可される。
- 1996年2月 児童養護施設を開く。
- 2000年11月 ピーター・カルリが初来日。
- 2004年1月 職業訓練センター(裁縫溶接)を開く。
- 2005年11月 長年にわたるサイディア・フラハの運営が評価され、共同運営者の荒川勝己が社会貢献支援者賞を受賞。(主催：社会貢献支援財団)
- 2011年8月 縫製工房を開く。
- 2013年5月 デニス・コーデが初来日。
- 2013年8月 設立20周年記念式典開催。
- 2014年1月 小学校開設。
- 2014年12月8日 テレビ東京『世界ナゼそこに?日本人』で荒川勝己の半生とサイディア・フラハの活動が紹介される。
- 2019年6月15日 荒川勝己、第23回米百俵賞特別賞(新潟県長岡市主催)を受賞。
- 2020年12月10日 ピーター・カルリ、新型コロナにて死去。
- 2021年 サイディアonline紹介を開始。



児童養護施設を卒業した子どもたちと荒川勝己